

## MOON

花束を一つそっと  
今年もプレゼント  
君の眠る街まで  
微笑みに照らされながら

あの夜を思い出した  
窓から空を覗く  
白いベットの上で  
ポツリと呟いた

「月で待ってるわ  
迎えに来てね  
あなたのことだから  
慌てないで」

涙はポケットにしまって  
指輪を見つめている  
最初で最後だった  
手を繋いで歩いた道で

「あなたに会いたいけど  
こんなしわだらけな顔じゃ  
恥ずかしくなるから  
月に隠れていようかしら」

「それなら三日月の日に  
迎えに行こうかな」なんて  
また意地悪言うから  
その時は笑ってよ

いつか 空の旅に出よう

花束を君にそっと  
月までプレゼント